

大津市がん対策に関する調査結果報告書

【 概 要 版 】

令和6年3月

■ 市民意識調査

- 調査地域 大津市全域
- 調査対象 市内在住20歳以上75歳未満の住民3,000名を無作為抽出
- 調査期間 2023年11月～12月
- 調査方法 郵送配布/郵送回収
- 回収結果 有効回収数 1,005 回収率 33.5%

■ 事業所調査

- 調査地域 大津市全域
- 調査対象 大津市内事業所1,600件
- 調査期間 2023年11月～12月
- 調査方法 郵送配布/郵送回収
- 回収結果 有効回収数 512 回収率 32.0%

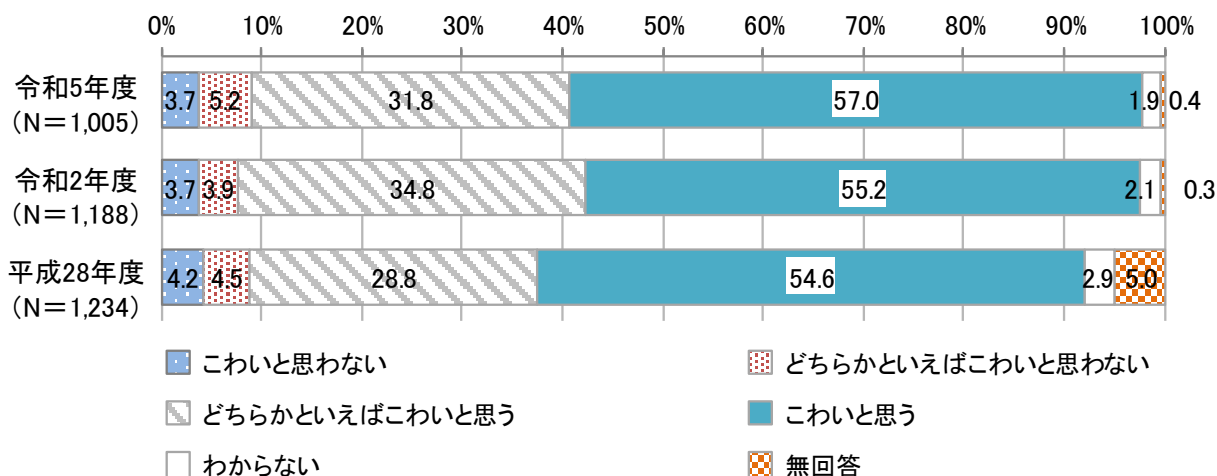
I. 市民意識調査

1. がんに関する印象と認識について

◆がんに対する印象

- ◆ 大津市民のがんに対する印象は「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」を合わせると88.8%となっており、令和2年と比較するとわずかに減少しました。

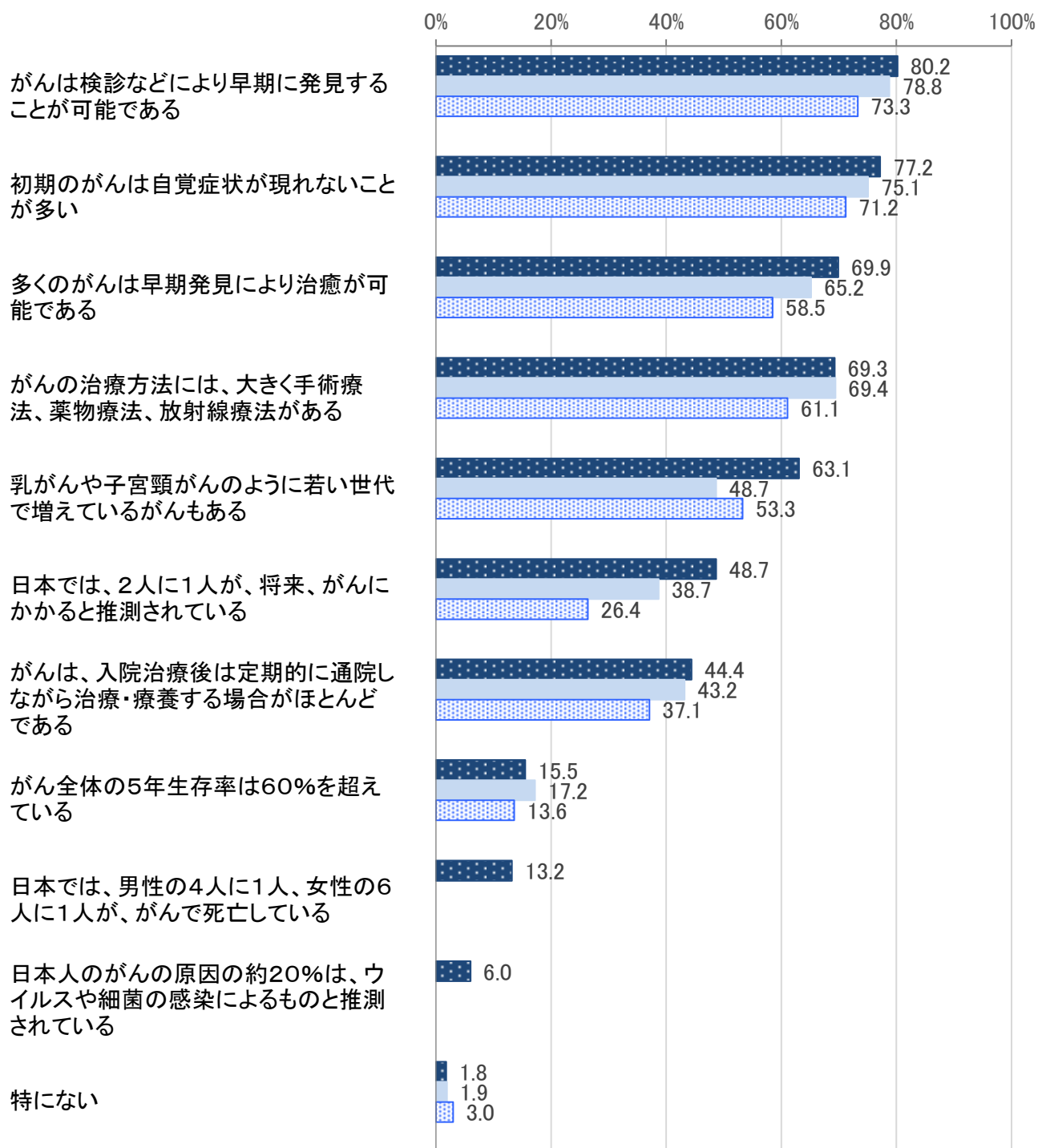
「あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか」



◆がんについて知っていること

- ◆ がんについて知っていることでは、「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が8割を超えて、最も高く、次いで「初期のがんは自覚症状が現れないことが多い」が77.2%となっています。その他の項目は7割以下ですが、概ね令和2年よりも増加しています。
- ◆ 中でも「若い世代で増えているがんもある」や「日本では、2人に1人が、がんにかかると推測されている」が前回よりも10ポイント以上増加しました。

「がんについてあなたが知っていることは何ですか」

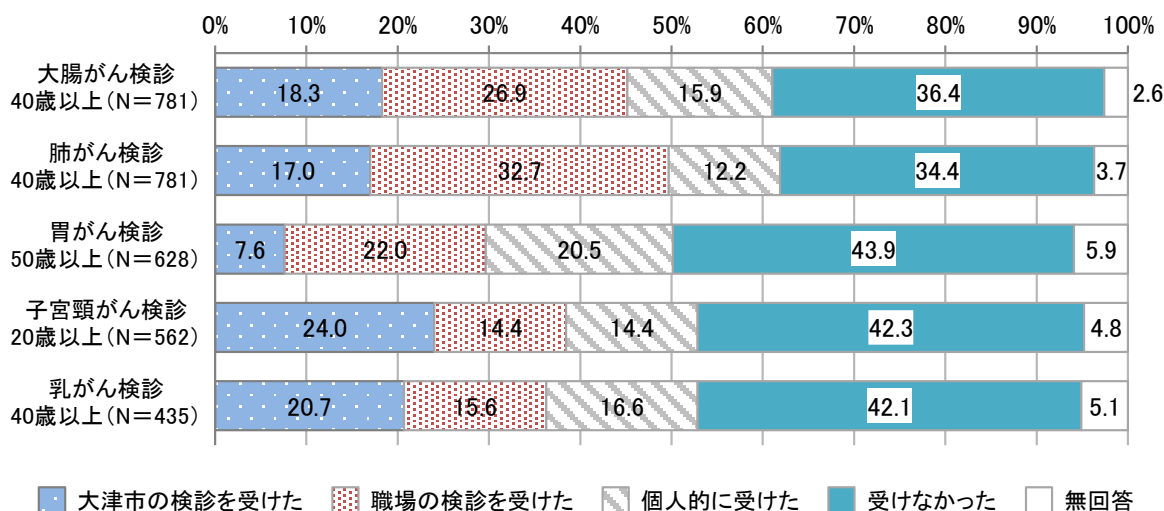


2. 各がん検診受診状況

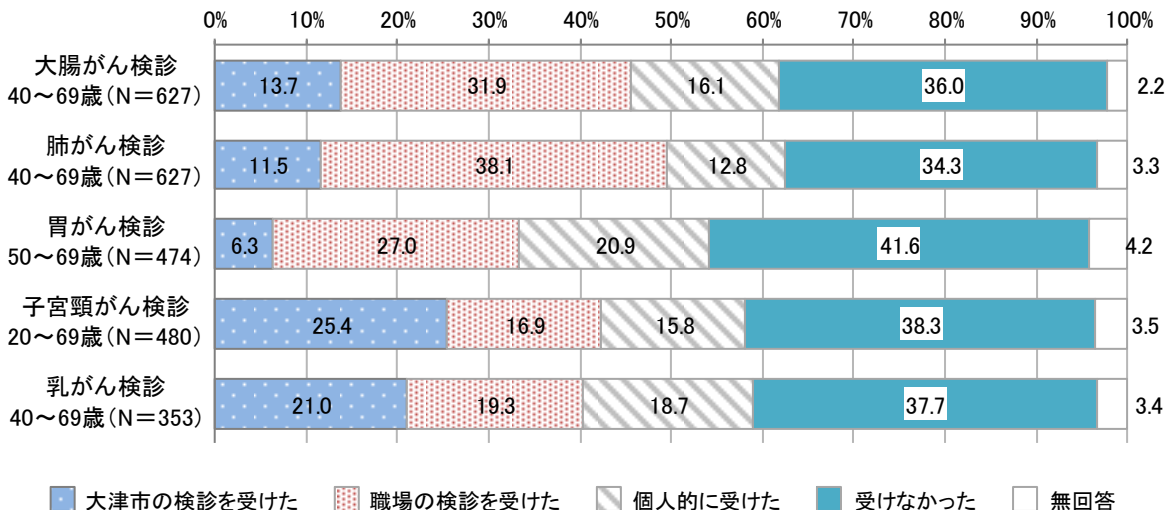
◆がん検診の受診状況

- ◆ 大津市のがん検診対象年齢におけるがん検診の受診状況をみると、検診を受けた計は、肺がん検診が最も高く61.9%、次いで大腸がん検診が61.1%でした。国の指針で受診を特に推奨する年齢では、検診を受けた計は、肺がん検診が最も高く62.4%、次いで大腸がん検診が61.7%でした。どちらの対象年齢でも、その他のがん検診の受診率は6割に届いていません。
- ◆ 各がん検診とも、令和2年より「職場の検診を受けた」割合が増加しています。

《大津市のがん検診対象年齢におけるがん検診の受診状況》

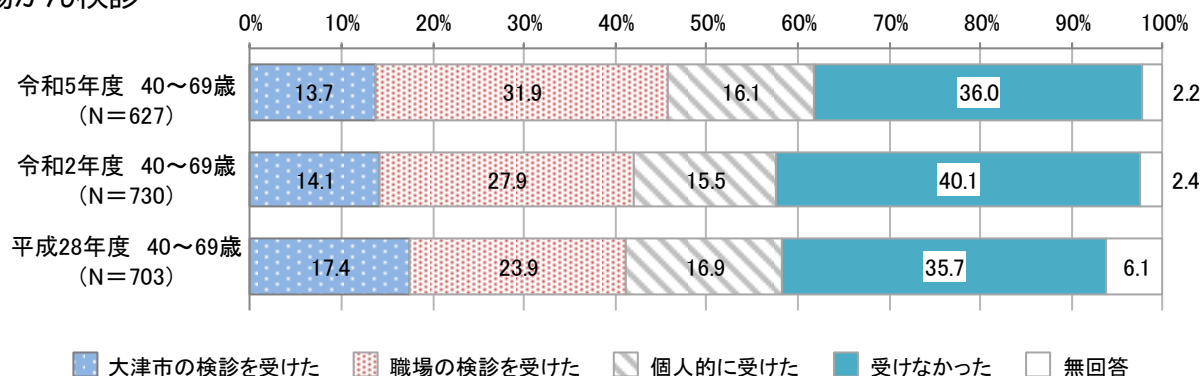


《国の指針で受診を特に推奨する年齢におけるがん検診の受診状況》

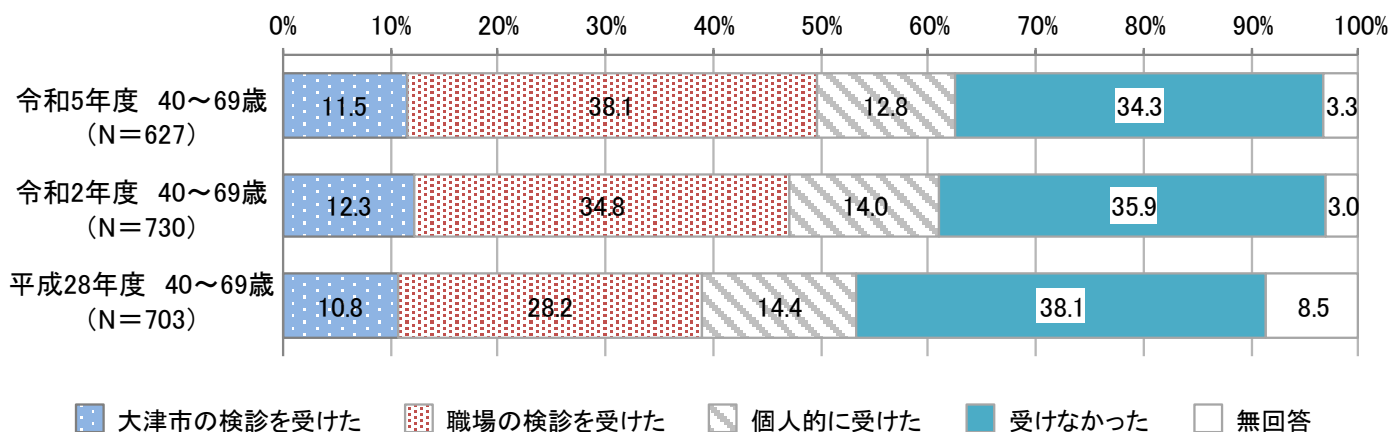


《国の指針で受診を特に推奨する年齢における各がん検診の受診状況推移》

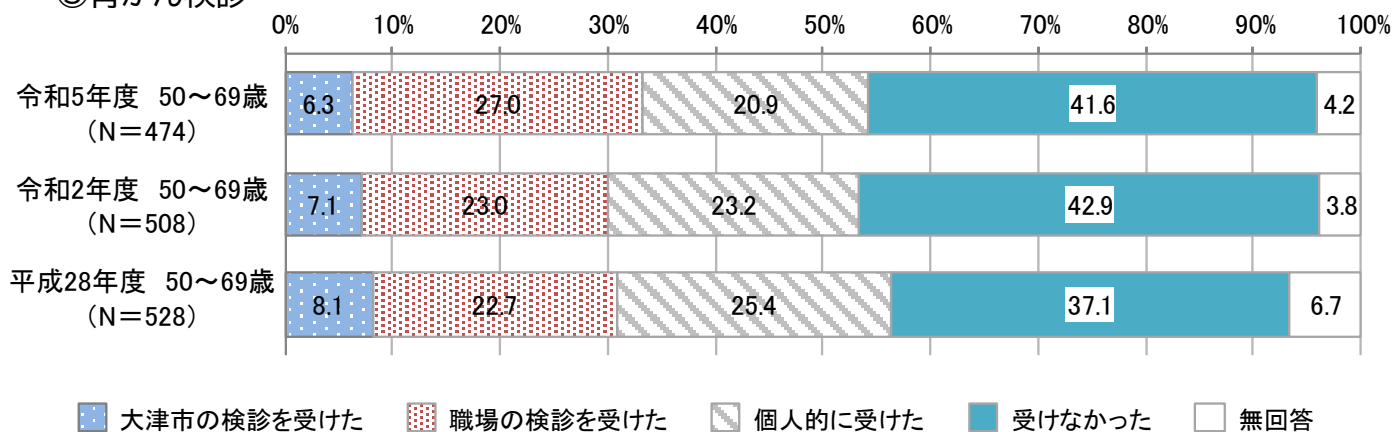
①大腸がん検診



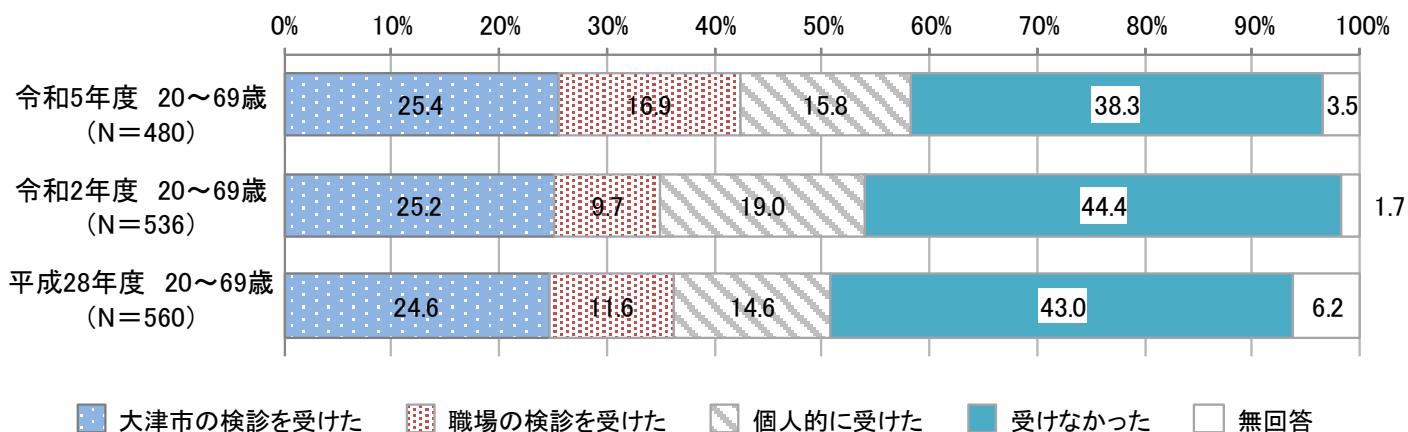
②肺がん検診



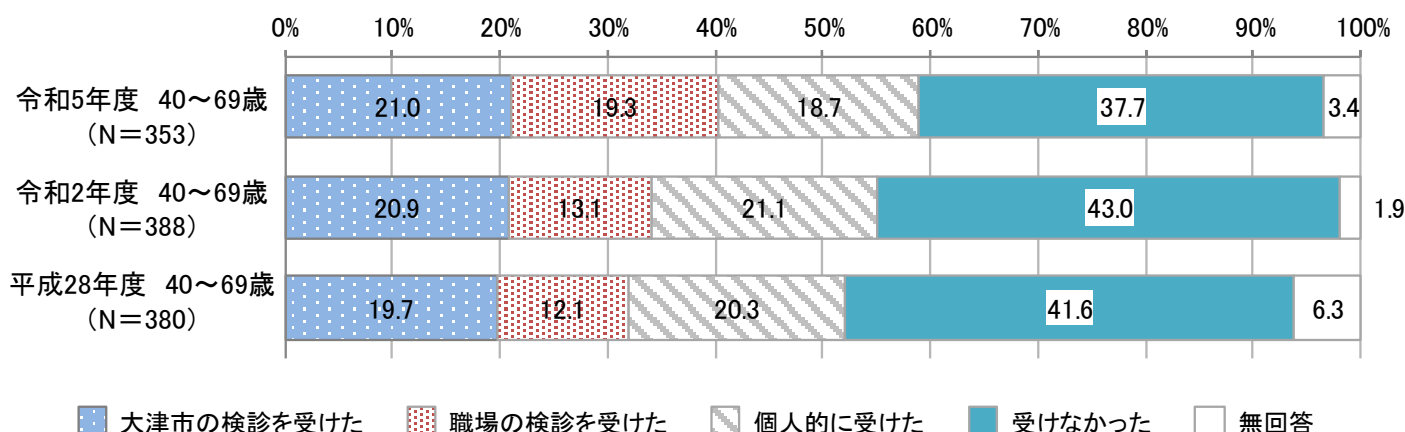
③胃がん検診



④子宮頸がん検診



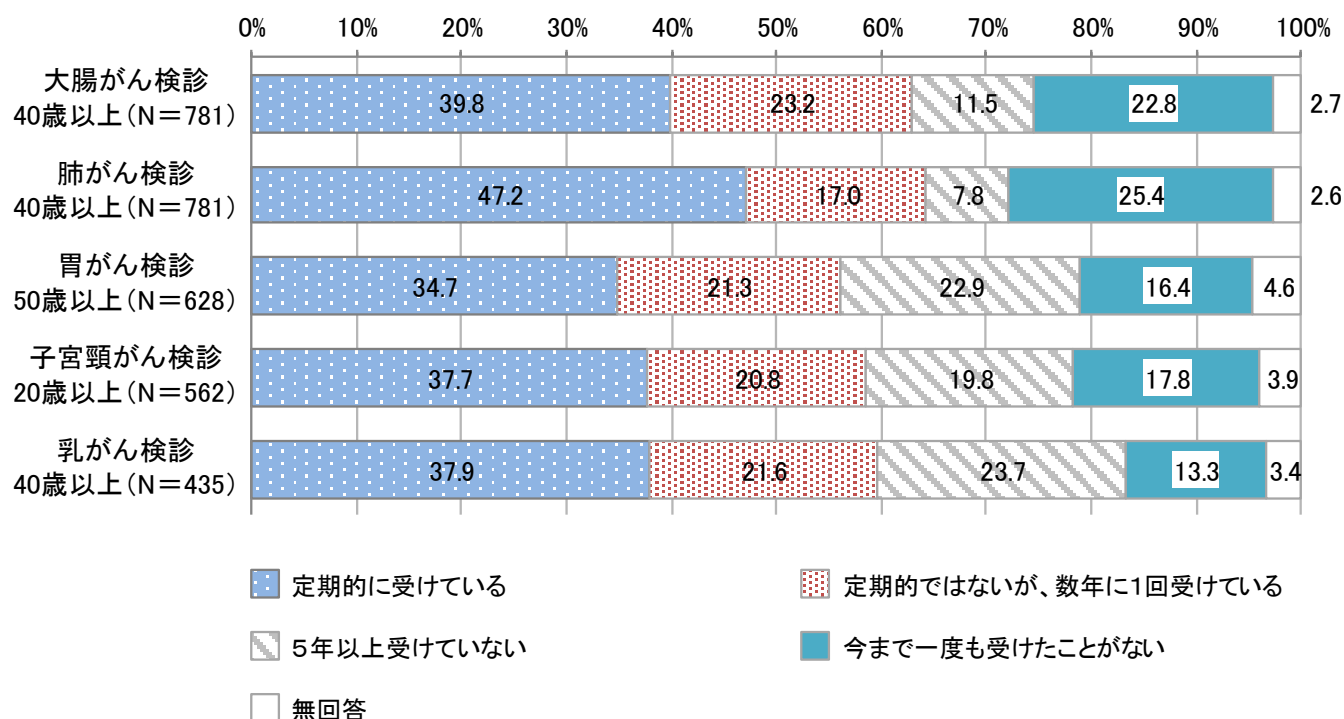
⑤乳がん検診



◆継続受診の状況

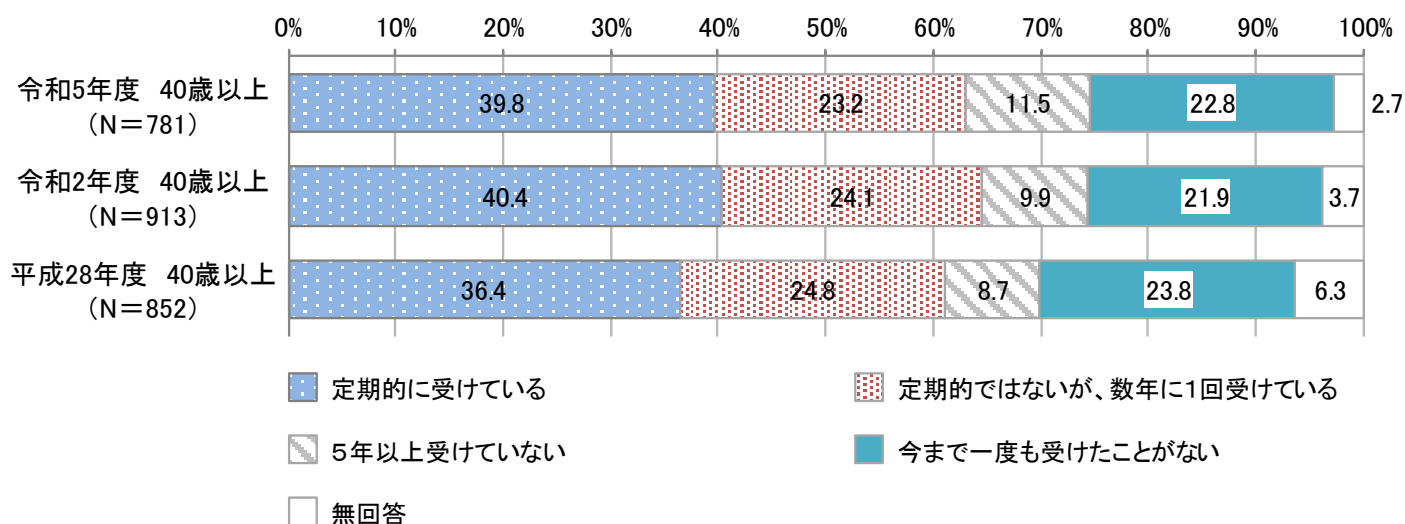
- ◆ 継続受診の状況では、「定期的に受けている」が最も高いのは肺がん検診で47.2%となっています。肺がん検診は継続受診率が高い一方で、「今まで一度も受けたことがない」の割合も他の検診より高くなっています。
- ◆ 令和2年と比べて、子宮頸がん検診で「定期的に受けている」の割合が増加しています。また、乳がん検診では「今まで一度も受けたことがない」の割合が減少しています。その他の検診では、あまり変化はみられません。

「あなたはがん検診を定期的に受けていますか」

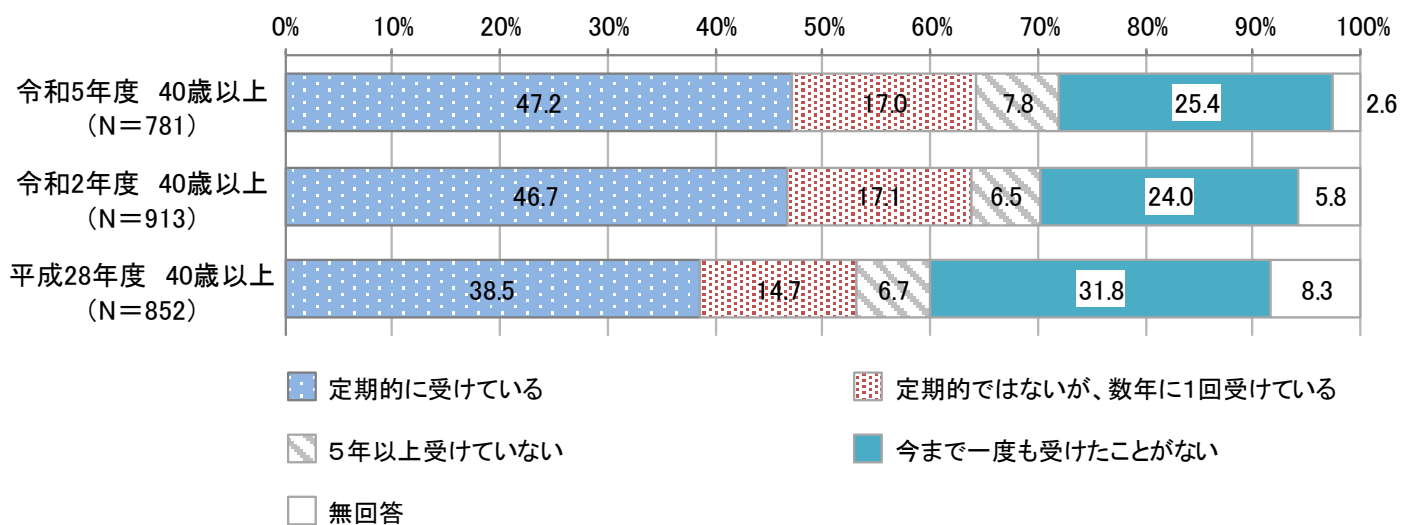


《がん検診対象年齢における各がん検診の継続受診状況推移》

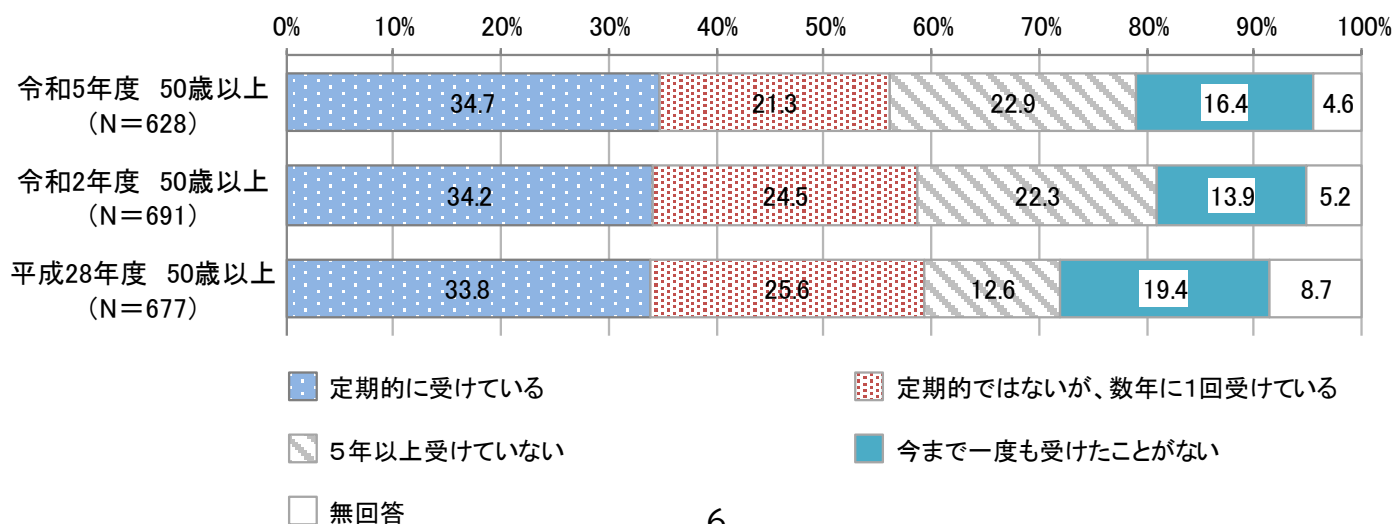
①大腸がん検診



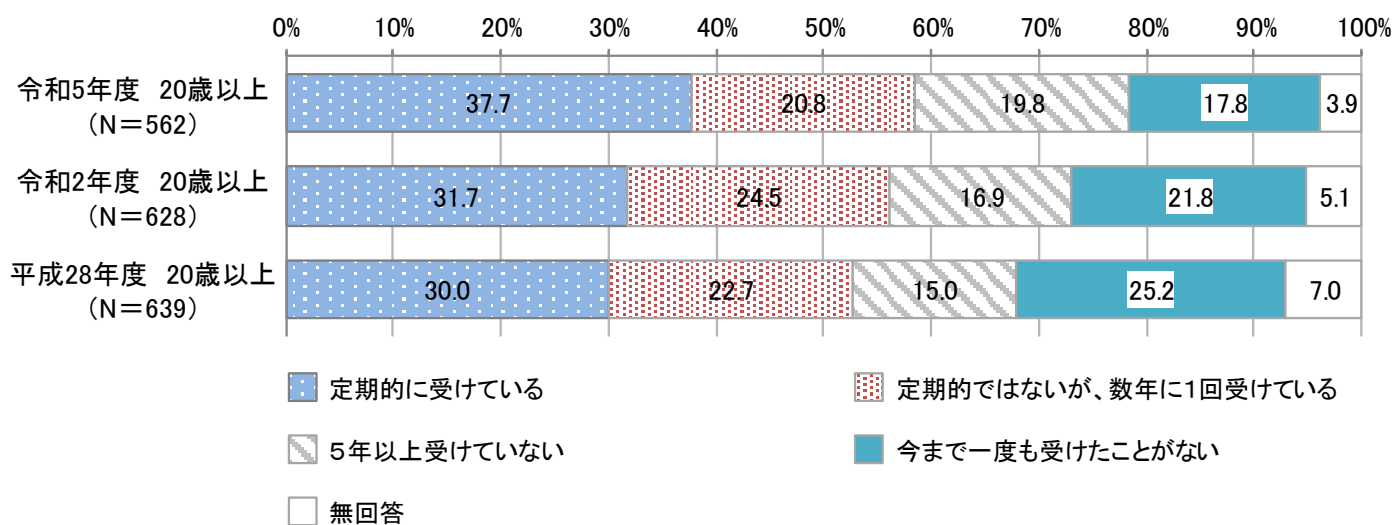
②肺がん検診



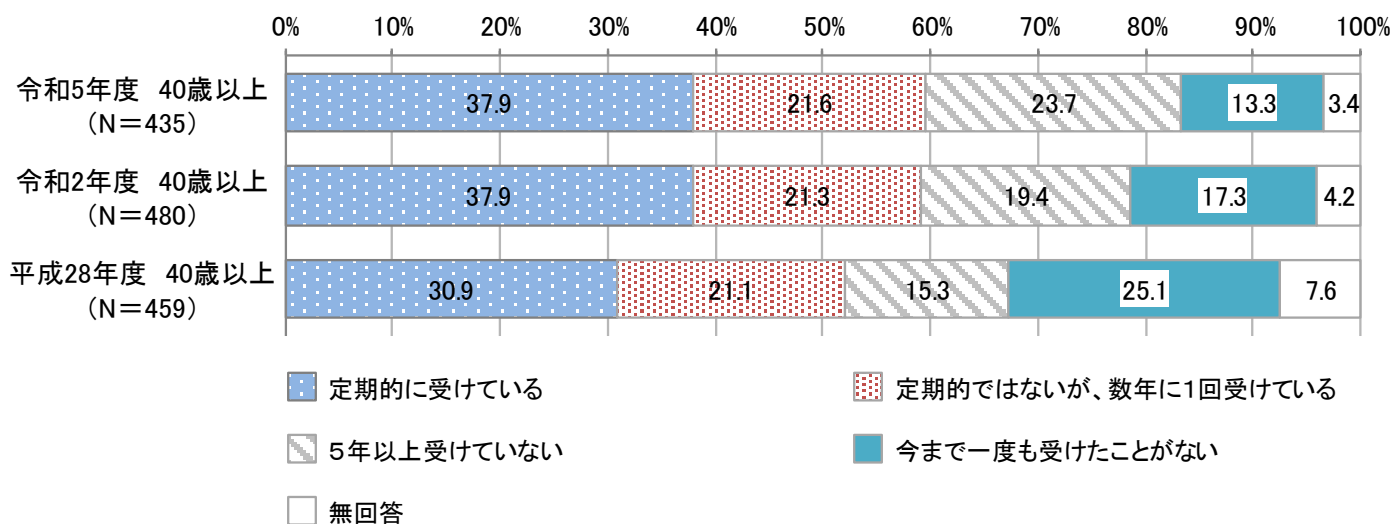
③胃がん検診



④子宮頸がん検診



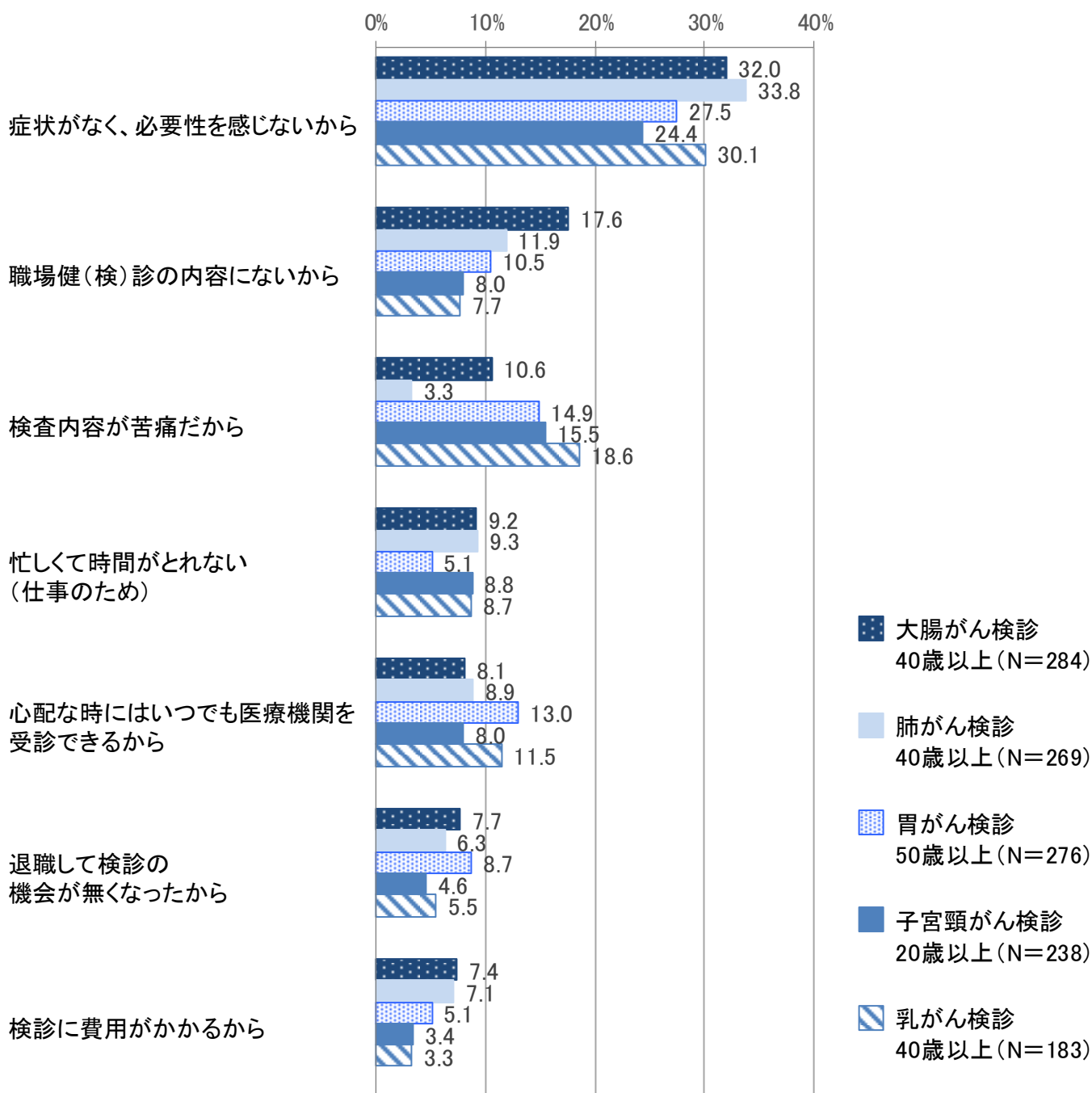
⑤乳がん検診



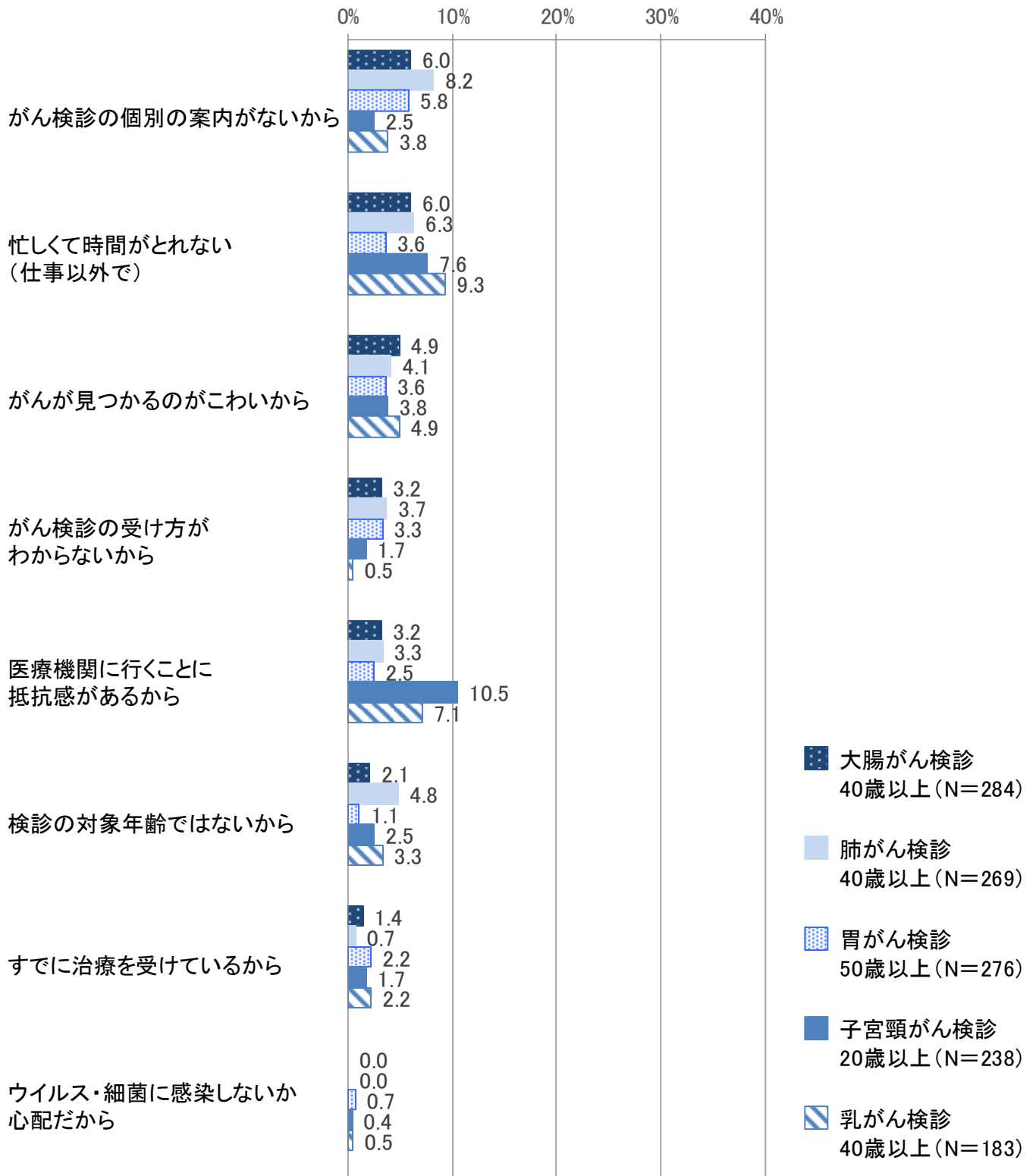
◆がん検診を受けなかった理由

- ◆ がん検診を受けなかった理由では、どのがん検診でも「症状がなく、必要性を感じないから」が最も高くなっています。次いで、大腸がん検診、肺がん検診では「職場健診の内容にないから」が高く、胃がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診では「検査内容が苦痛だから」が高くなっています。

《受けなかった理由:上位項目》



《受けなかった理由:下位項目》



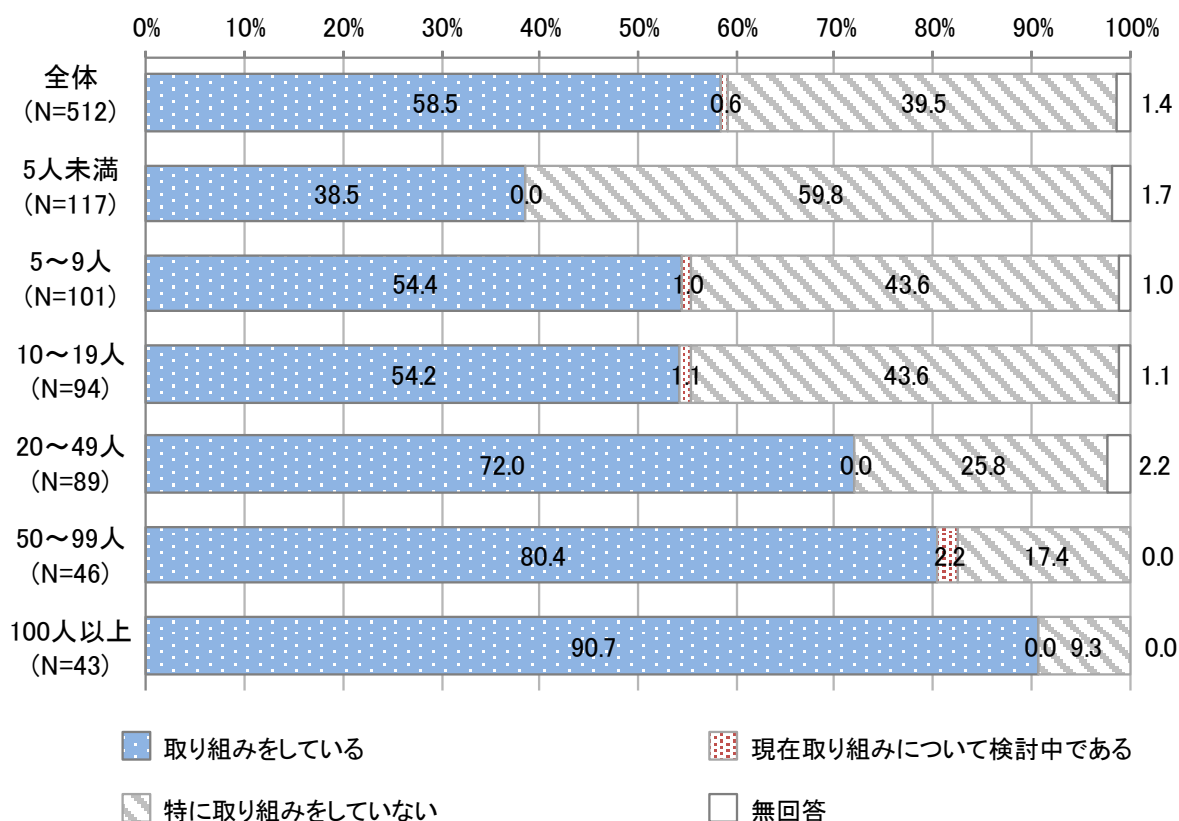
Ⅱ. 事業所調査

1. 事業所におけるがん対策の取り組みについて

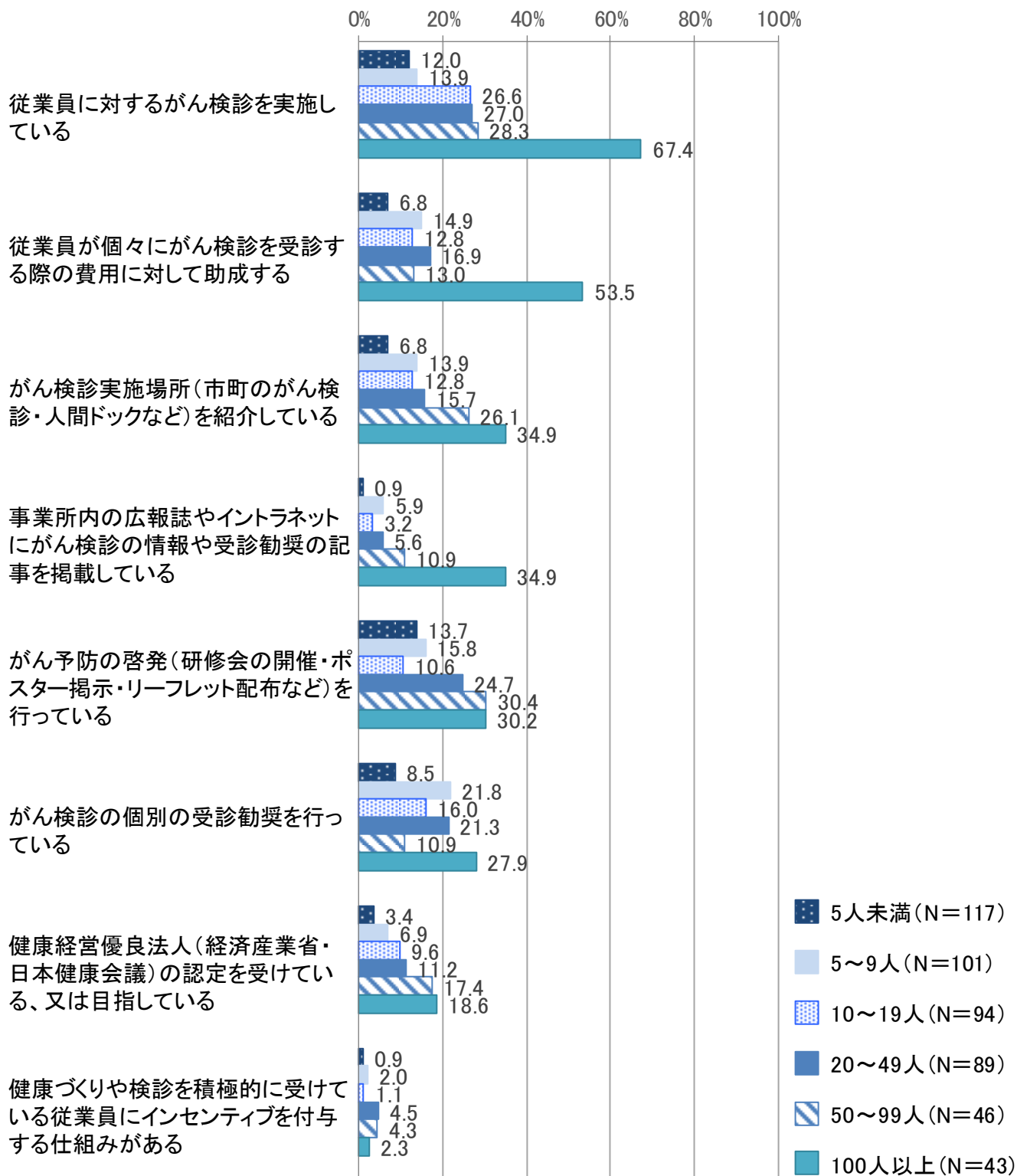
◆がん予防やがん検診の受診促進のための取組

- ◆ 大津市に拠点を置く事業所で、がん予防やがん検診の受診のために、「取り組みをしている」事業者は全体で58.5%となっています。
- ◆ 従業員規模別で見ると、「取り組みをしている」割合は、5人未満で38.5%で、従業員規模が大きくなるほど、取り組みをしている割合も増加し、100人以上では90.7%となっています。
- ◆ 取り組みの内容をみると、「従業員に対するがん検診を実施している」は従業員規模100人以上で67.4%、一方、従業員規模5人未満では12.0%となっており、勤め先の従業員規模でがん検診の受診率に大きく差があると考えられます。

《がん予防やがん検診の受診促進のために、貴事業所で取り組んでいることがありますか》



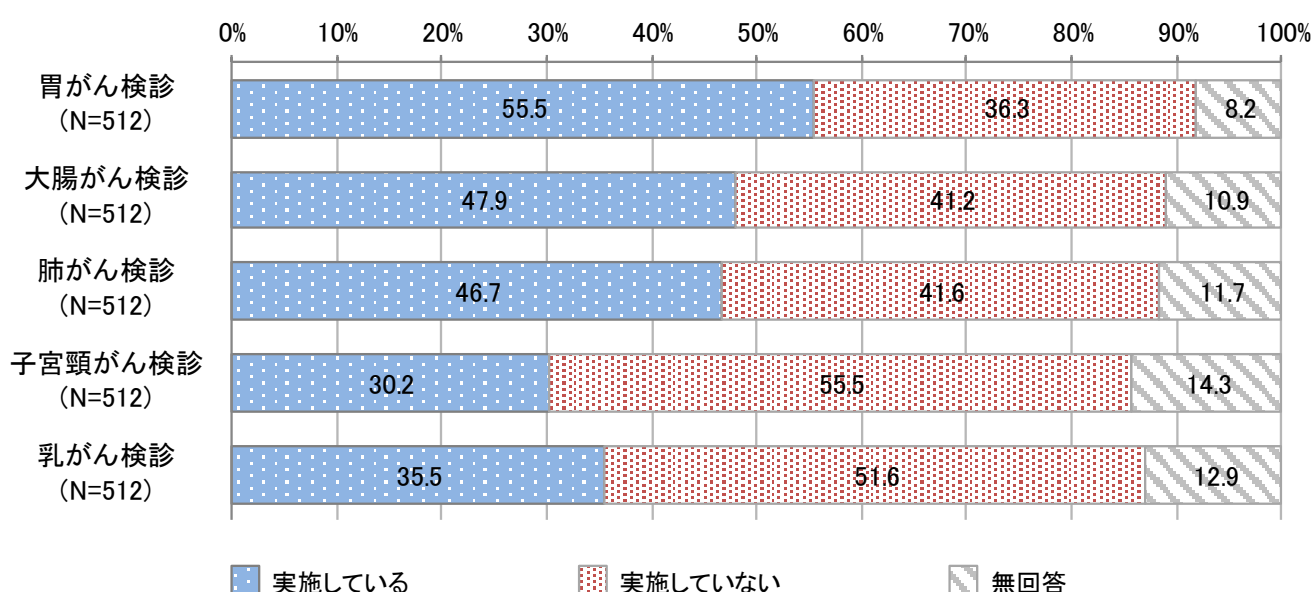
《がん予防やがん検診の受診促進のために、事業所で取り組んでいることの内容》



◆各種がん検診の実施状況

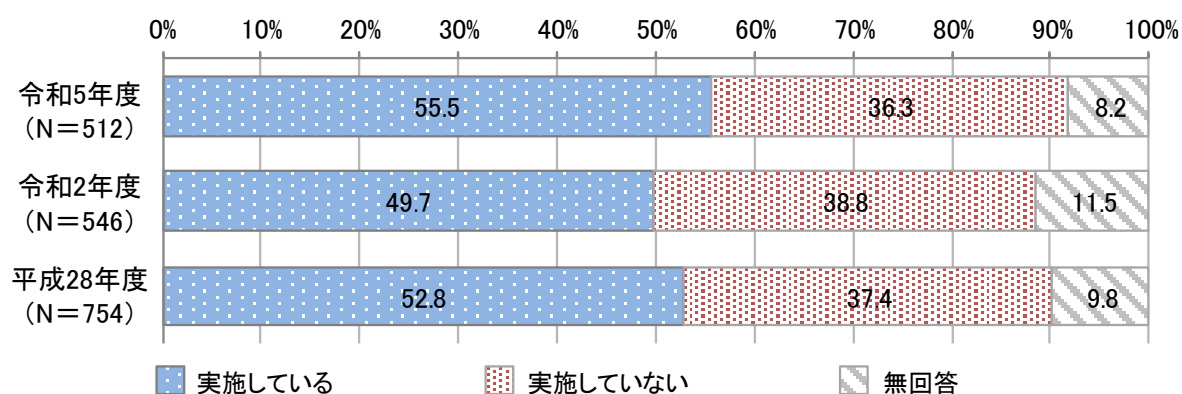
- ◆ 大津市に拠点を置く事業所の各種がん検診の実施状況は胃がん検診が55.5%で最も高く、大腸がん検診、肺がん検診が40%台後半で続いています。子宮頸がん検診、乳がん検診の実施率は30%台に留まっています。
- ◆ 令和2年と比較すると、胃がん検診の実施率が増加しています。その他のがん検診の実施率はあまり変化はありません。

≪各種がん検診の実施状況≫

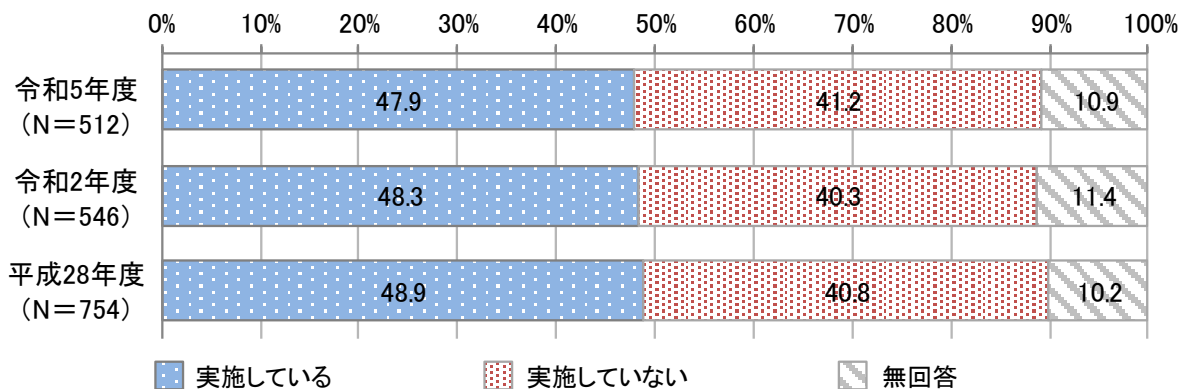


≪各種がん検診の実施状況経年推移≫

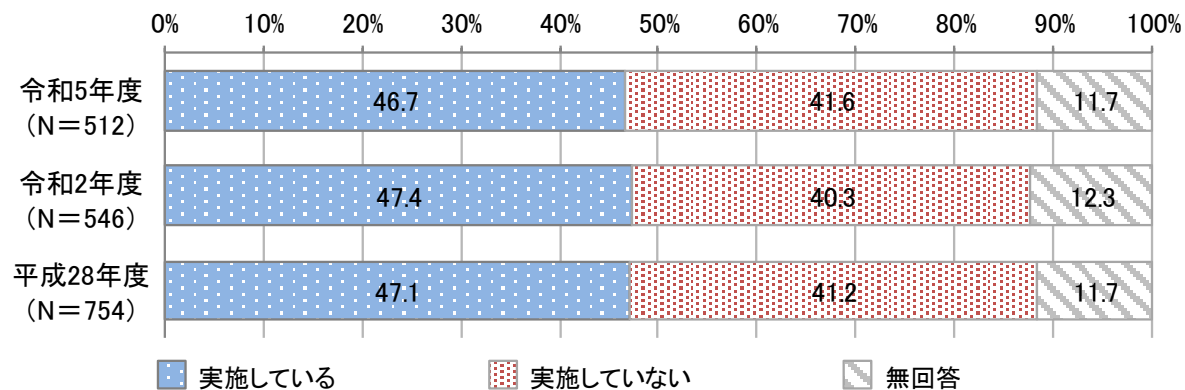
①胃がん検診



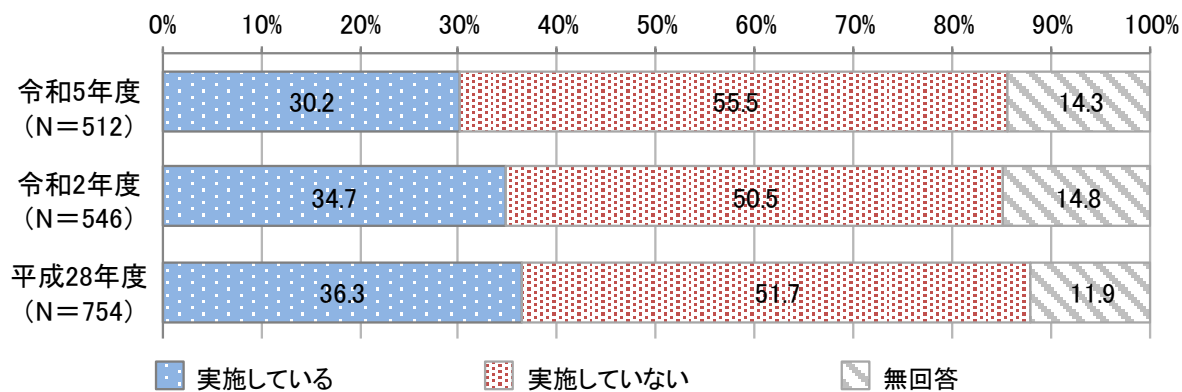
②大腸がん検診



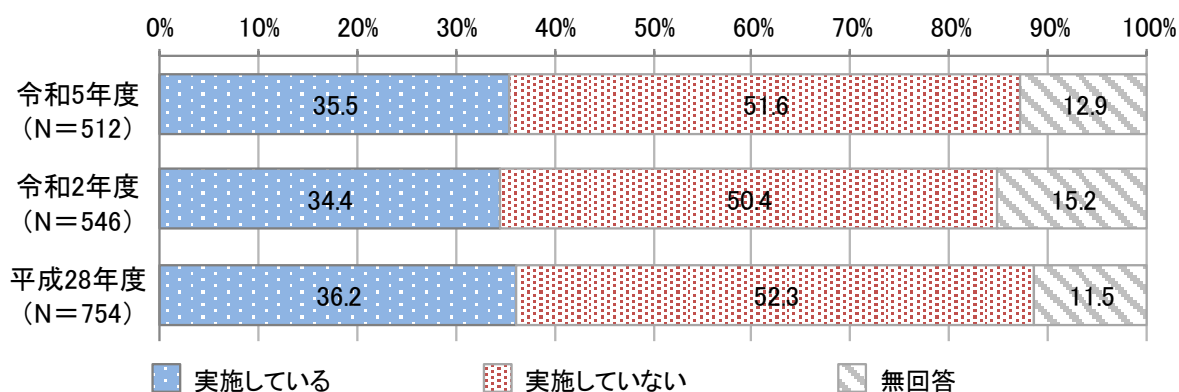
③肺がん検診



④子宮頸がん検診

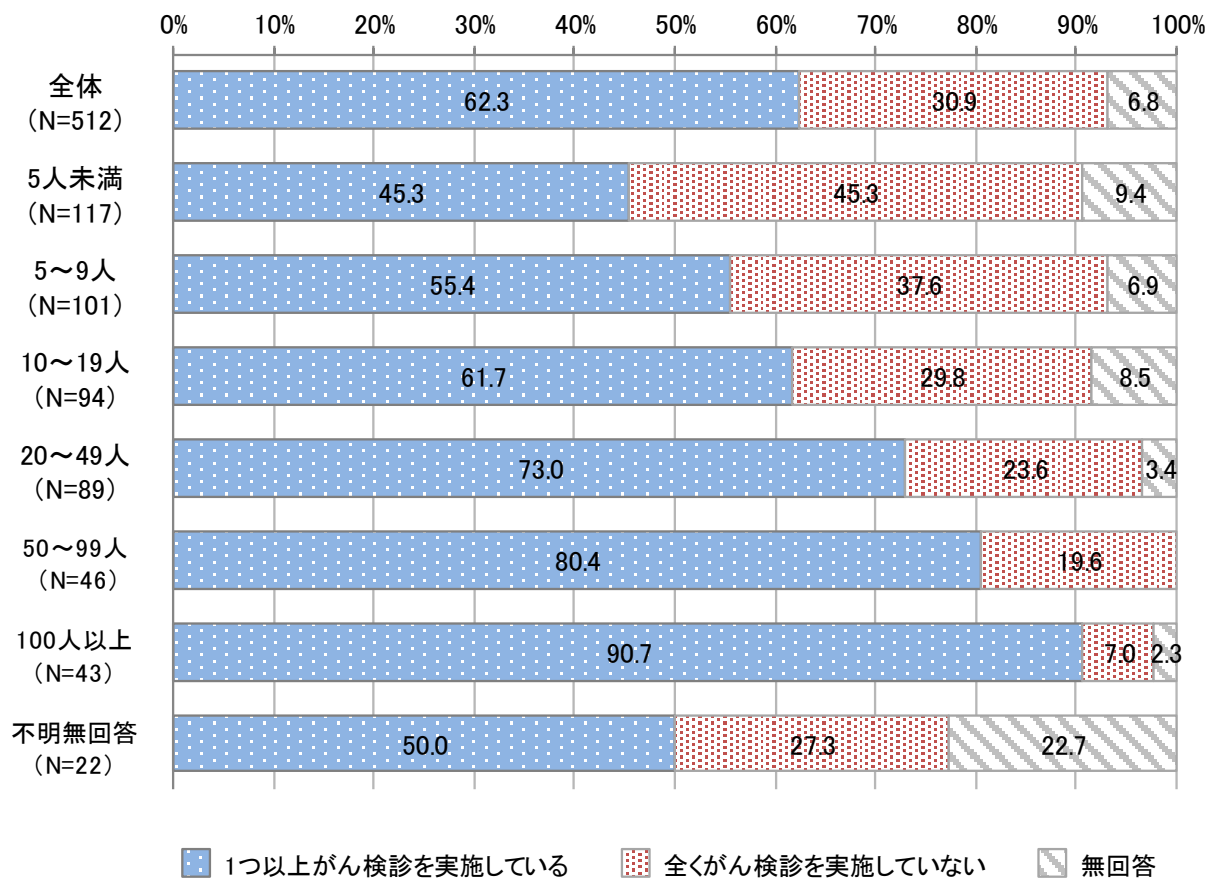


⑤乳がん検診



◆事業所規模別にみるがん検診の実施状況

- ◆ 大津市に拠点を置く事業所で、1つ以上がん検診を実施している割合は62.3%です。
- ◆ 事業所規模別で各種がん検診の実施状況を見ると、5人未満で45.3%で、従業員数が多くなるほど実施率は高くなり、100人以上になると90.7%となっています。



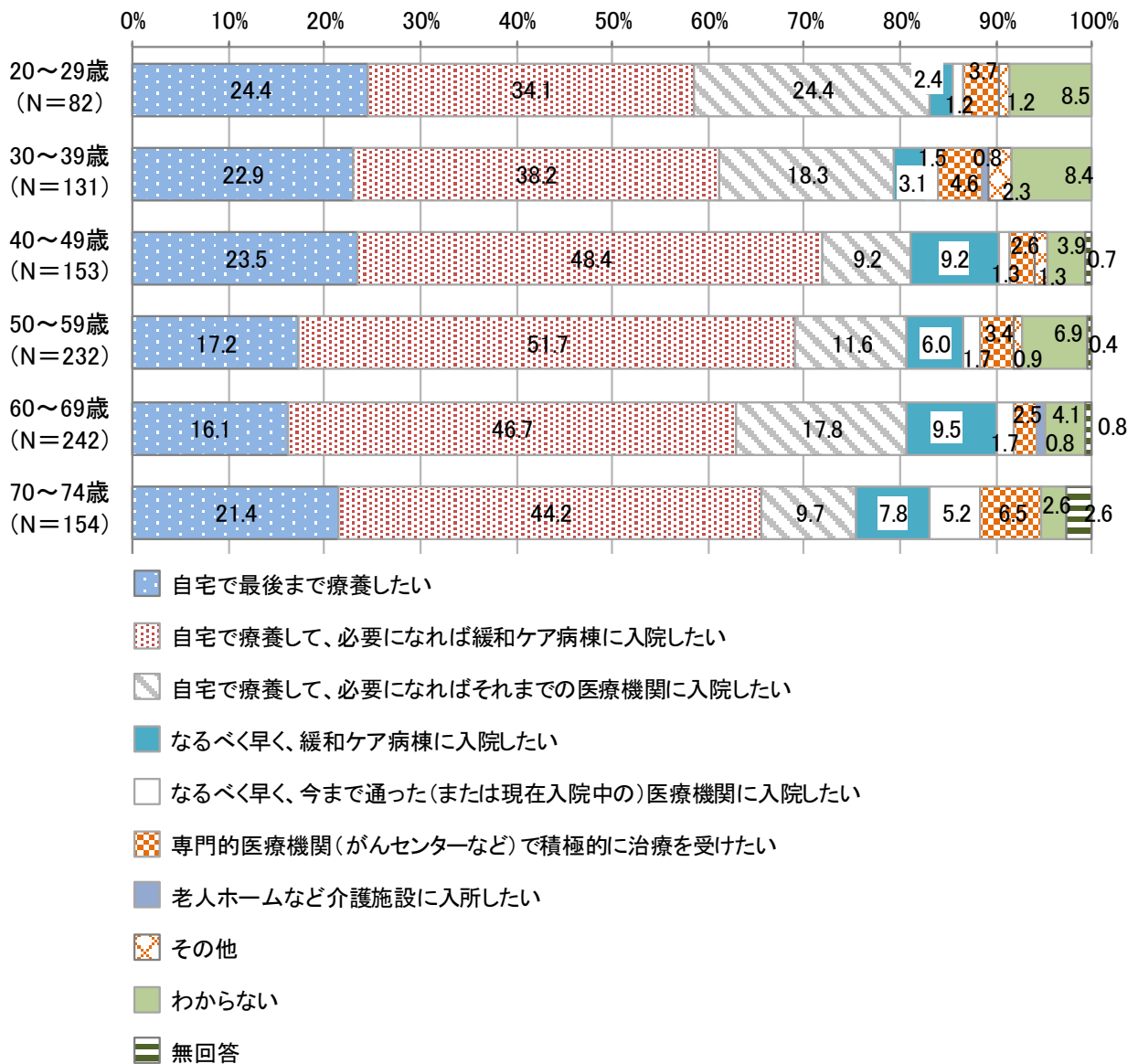
Ⅲ. 市民意識調査と事業所調査をふまえて

1. 療養生活・仕事と治療の両立について

◆がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合に希望する療養生活の場所【市民意識調査】

- ◆ 希望する療養生活の場所では「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」がどの年代でも最も高くなっています。

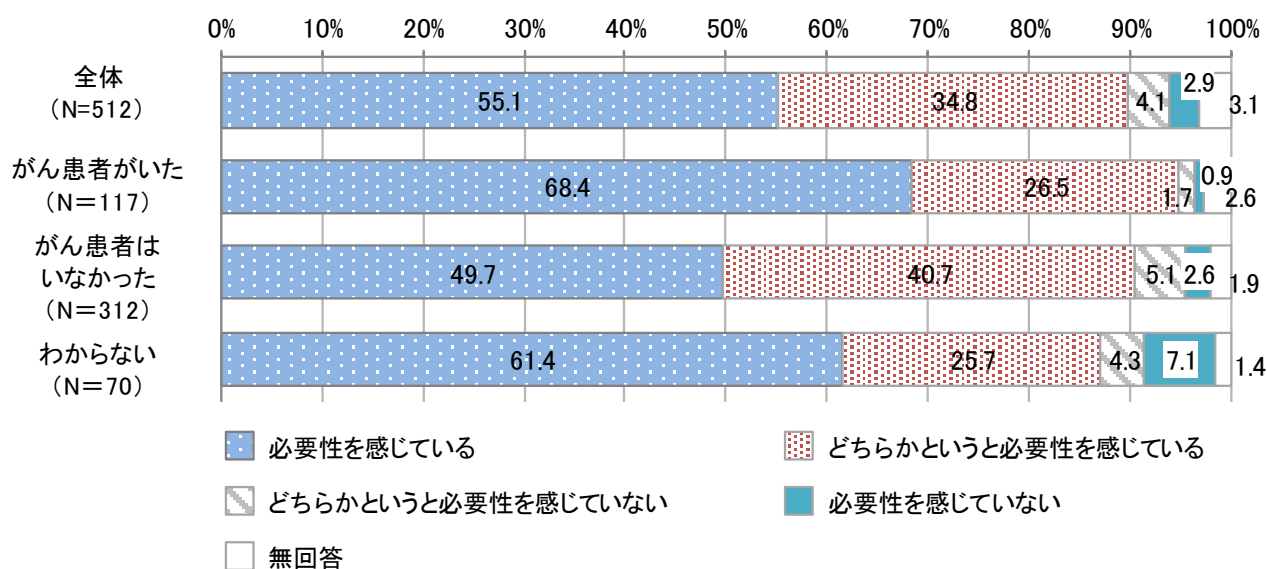
「あなたご自身が、がんと診断され、治ることが難しいと告げられた場合、退院後の療養生活をどこで送りたいですか」



◆仕事と治療の両立ができる職場の必要性について【事業所調査】

- ◆ 大津市に拠点を置く事業所の9割が「仕事と治療の両立ができる職場」の必要性を感じていると回答しており、特に、過去、がん患者がいた経験のある事業所の方が、必要と感じている割合が高くなっています。

《仕事と治療の両立ができる職場の必要性について》



◆仕事と治療を両立する上で必要な情報提供【事業所調査】

- ◆ 仕事と治療を両立する上で必要な情報提供を事業規模別で見ると、どの規模の事業所でも「従業員が相談できる相談窓口の情報」が最も高く、次いで「事業者が相談できる相談窓口の情報」となっています。
- ◆ 100人以上の事業所では、「事業所内での従業員教育などに使える保健師などによる出前講座の紹介」を約4分の1の事業所が必要と回答しています。

「がんの予防や早期発見、がんにかかった従業員の仕事と治療の両立を実現するために、大津市から事業所に対して、どのような情報提供があれば良いと思いますか」

